

全国鉄筋工事業協会(全鉄筋、岩田正吾会長)が主催する「第3回全国鉄筋技能大会(TETSU-1グランプリ)」が、富士教育訓練センター(静岡県富士宮市)で24日開かれ、鉄筋組み立ての作業時間と精度を競った。関西鉄筋工業協同組合代表の和田浩茂選手(富田興業、33)が優勝し最強鉄筋工の座を手にした。

第3回TETSU-1グランプリ

2面に関連記事

和田、松本、中村選手が入賞

TETSU-1グランプリ

日本一の鉄筋工を決める「第3回全国鉄筋技能大会(TETSU-1グランプリ)」が、富士教育訓練センター(静岡県富士宮市)で24日開催され、1位には富田興業(関西鉄筋工業協同組合)の和田浩茂選手(33)、2位には丹羽鉄筋興業(北海道鉄筋業協同組合)の松本兼一選手(37)、3位にはマルゼン建鉄(長野県鉄筋業協会)の中村翼選手(24)が輝いた。関西鉄筋工業協同組合の代表者が前回大会に続き2連覇となった。



鉄筋王に輝いた和田選手(右)、2位の松本選手(中央)、3位の中村選手

大勢の観客の前で鉄筋組み立ての技を競った。手前は優勝した和田選手



TETSU-1グランプリは鉄筋技能者の技能の向上を目的に2年に1度開催されている。今回は全国の予選を勝ち抜いた34人の選手が参加。限られた時間内に日頃練習してきた技を競い合った。

課題の製作に取り組んだ。採点は準時間は1時間20分。採点が上がっている。今回は1時間を超えた選手が何人もいた。この技能を多くの人に見てもらい、鉄筋工の技能のすばさを知ってもらいたい」と講評。岩田会長は「今大会に出場された方々は、鉄筋工の中でもトップレベルの技能者。協会としても優秀な鉄筋工の技を適正に評価してもらい、近い将来年収が1000万円になるよう処遇改善を進めた」と締めくくった。



岩田会長

岩田会長は「力いっぱい頑張る」と選手宣誓した。競技は午前と午後の2回に分けて実施。国家技能検定鉄筋組み立て1級の問題に、はら筋一段を追加した



ひと

周囲の人たちに感謝

全国鉄筋工事業協会が隔年で開催している第3回全国鉄筋技能大会(TETSU-1グランプリ)で第1位に輝いた。第1回大会を見に来て自分が優勝したいと思った。それが実現できてうれしい。2005年に

第3回TETSU-1グランプリ優勝 和田浩茂選手(富田興業)

開催された第1回大会では勢の人たちの前で「かなり同じ会社(富田興業)の先緊張した」。作業を進めながら3位に。その時の悔しさを今大会にぶつけた。大会出場が決まったあ前には出来栄を点検する余裕も。「当社のプランの気が済むまで練習している余裕も。」「当社のプランのいいから」と言われ、周囲の人に迷惑をかけながら練習に励んできた。「競技大は競技でも生かされた。会には技能を競うものだが、ある意味スポーツ競技と同じ。数、単位で出来上がりチェックし、どうすれば早く正確に作業ができるか、ひたすら練習した」それでもスタートの笛が鳴った時、手が震えた。大兵庫県尼崎市出身、33歳。

優勝は和田氏(富田興業)、関西代表が連覇

全国鉄筋工事業協会(岩田正吾会長)は24日、第3回全国鉄筋技能大会「TETSU-1 GRAND PRIX」を静岡県富士宮市の富士教育訓練センターで開催した。大会には各地区の予選を勝ち抜いた33人の選手が出場し、日ごろ鍛えた技を競った。選手や大会関係者100人のほか、約600人が来場し、大会は大いに盛り上がった。

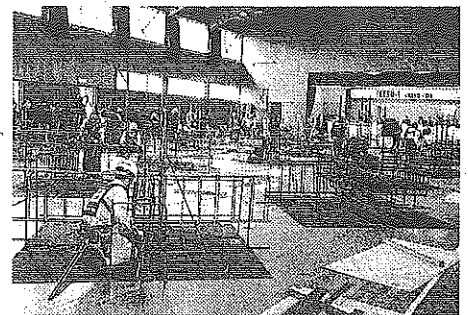
競技は前後半に分けて行われ、組立時間(速さ)と出来栄えや正確さなど厳正な審査の結果、最優秀賞(第1位)の国土交通大臣賞には関西代表の和田浩茂氏(富田興業)が輝き、トロフィーや賞金などが贈られた。前回大会の谷口圭氏(同)に続き、関西代表が連覇を果たした。

準優勝(国土交通省土地・建設産業局長賞)は北海道代表の松本兼一氏(丹羽鉄筋興業)、第3位(全国鉄筋工事業協会賞)は長



右から優勝した和田氏、準優勝の松本氏、3位の中村氏

全鉄筋 第3回TETSU-1GP



33選手が日ごろ鍛えた技を競った

野代表の中村翼氏(マルゼン建鉄)がそれぞれ受賞した。また、参加者全員に参加賞が贈られ、出場選手を代表して選手宣誓した愛知県代表の高橋喜継氏(マツダスタール)が受け取った。

最優秀賞を受賞した和田氏は「会社や仲間の後押しがあったから優勝できた。この半年、優勝目指し自分自身も仲間も時間を削って練習してきた。仲間に迷惑をかけたが、優勝できたので良かった」と安堵の表情を浮かべ、「これからも品質とともに安全作業で頑張っていきたい」と力強く語った。

また、第1回大会で3位の全鉄筋会長賞を南昌宏氏が受賞しており、富田興業の所属の選手は3大会連続での入賞を果たしている。

「恵まれた環境でやらせてもらった」ことに感謝した。また、中学卒業後、「先輩の姿を見て、この仕事をやりたい」と思い、親の反対を押し切って鉄筋業界に入職しただけに、「優勝できて、少し恩返しできたのでは」とも。